

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通学・通信）

事業者名： 社会福祉法人
三多摩福祉会

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画		
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数		実施内容
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3	(1) 講義のみ
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3	講義及び演習：視聴覚教材を用い、現場職員の体験を聞き、働く現場についてグループ毎に話し合っ発表をする。
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左	5	(1) 講義のみ
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	4	講義及び演習：介護予防、残存機能の活用をテーマ(2)に講師が事例を提示し、グループで話し合い発表をする。
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左	2	(1) 講義のみ
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左	1	(2) 講義のみ
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	2	講義及び演習：事故予防や安全対策、感染予防等の(3)事例に基づき、介護に関するリスクについてグループで話し合い発表をする。
(4) 介護職の安全		(4) 同左	1	(4) 講義のみ

別記第1号の2様式

4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 9時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携
(1) 介護保険制度	(1) 同左 5	(1) 講義のみ
(2) 障害福祉制度及びその他制度	(2) 障害者総合支援制度及びその他制度 2	(2) 講義及び演習：障害者総合支援制度の理解をするために、介護給付の申請から支給決定迄のフローチャートを各自が作成する。
(3) 医療との連携とリハビリテーション	(3) 同左 2	(3) 講義のみ
5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術 6時間	5 介護におけるコミュニケーション技術
(1) 介護におけるコミュニケーション	(1) 同左 3	(1) 講義及び演習：言語・非言語コミュニケーション技術のトレーニングをグループ毎に行い、障害者や認知症に応じた対応方法を話し合う。
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	(2) 同左 3	(2) 講義のみ
6 老化の理解 6時間	6 老化の理解 6時間	6 老化の理解
(1) 老化に伴うところとからだの変化と日常	(1) 同左 3	(1) 講義及び演習：例題テーマを設定し、そのテーマに基づいてグループで話し合い、発表する。(例：運動能力の低下による無力感)
(2) 高齢者と健康	(2) 同左 3	(2) 講義のみ
7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解 6時間	7 認知症の理解
(1) 認知症を取り巻く状況	(1) 同左 1	(1) 講義及び演習：認知症を理解する為に、認知症の高齢者の行動や心理症状をグループで話し合って発表する。
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	(2) 同左 2	(2) 講義のみ
(3) 認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	(3) 同左 2	(3) 講義のみ
(4) 家族への支援	(4) 同左 1	(4) 講義のみ

別記第1号の2様式

8 障害の理解	3時間
(1) 障害の基礎的理解	
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	
9 心とからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10～13時間
(1) 介護の基本的な考え方	
(2) 介護に関する心とからだのしくみの基礎的理解	
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	
イ 生活支援技術の講義・演習	50～55時間
(4) 生活と家事	
(5) 快適な居住環境整備と介護	
(6) 整容に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	
(7) 移動・移乗に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	
(8) 食事に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	
(9) 入浴、清潔保持に関連した心とからだのしくみと自立に向けた介護	

8 障害の理解	3時間
(1) 同左	1
(2) 同左	1
(3) 同左	1
9 心とからだのしくみと生活支援技術	75時間
ア 基本知識の学習	10時間
(1) 同左	4
(2) 同左	3
(3) 同左	3
イ 生活支援技術の講義・演習	55時間
(4) 同左	3
(5) 同左	3
(6) 同左	7
(7) 同左	7
(8) 同左	7
(9) 同左	7

8 障害の理解	
(1) 講義のみ	
(2) 講義のみ	
(3) 講義及び演習: 障害者を持つ家族の気持ちや、家族が抱えるストレスについてグループで話し合っ発表する。	
9 心とからだのしくみと生活支援技術	
ア 基本知識の学習	
(1) 講義のみ	
(2) 講義及び演習: 老化や障害を受け入れる過程での感情や生きる意欲の形成等をテーマに、講師が事例を提示し、グループで話し合い発表する。	
(3) 講義のみ	
イ 生活支援技術の講義・演習	
(4) 講義及び演習: 事例を示し、共に行う清掃、洗濯、調理等を演習する。	
(5) 講義のみ	
(6) 講義及び演習: 更衣・整容等の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、更衣、整容の実技演習をする。	
(7) 講義及び演習: 移動・移乗の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、移動・移乗の実技演習をする。	
(8) 講義及び演習: 食事介助方法の基本を学び、利用者を想定し、食事介助の実技演習をする。	
(9) 講義及び演習: 入浴・清潔保持の介助方法の基本を学び、利用者を想定し、入浴・清潔保持の介助方法を考え実技演習する。	

別記第1号の2様式

(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	
(12) 死にゆく人に関するところとからだのしくみと終末期介護	
(実習)※ (50～55時間中12時間以内)	
介護実習 ○時間	
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間	
在宅サービス提供現場見学 ○時間	
ウ 生活支援技術演習 10～12時間	
(13) 介護過程の基礎的理解	
(14) 総合生活支援技術演習	
10 振り返り 4時間	
(1) 振り返り	
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	
追加カリキュラム	
計 (130時間)	

(10) 同左	7
(11) 同左	3
(12) 同左	3
(実習)※ 8時間	
介護実習 (グループホーム・養護老人ホーム)	8
ウ 生活支援技術演習 10時間	
(13) 同左	5
(14) 同左	5
10 振り返り 4時間	
(1) 振り返り	2
(2) 同左	2
計 (130時間)	

(10) 講義及び演習:排泄介助方法の基本を学び、利用者を想定し、排泄介助の実技演習をする。
(11) 講義及び演習:利用者を想定した安眠の工夫、環境整備の実技演習をする。
(12) 講義のみ
(実習)※
施設介護を体験し高齢者に向き合う心構えを養う。
ウ 生活支援技術演習
(13) 講義及び演習:事例から、基本的情報の整理、アセスメント、介護計画をグループで立案し、発表する。
講義及び演習:2事例を使って、一連の生活支援を提供
(14) する際の視点、自立に向けた介護過程の展開方法を考え、実技演習する。
10 振り返り
(1) 講義及び演習:研修や実習を通して学んだことを振り返り、習得したことについて再確認し、各自発表する。
(2) 講義のみ

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、12時間以内とする。